

こんにちは！ 事務長の工藤大輔です。

四月八日
今日例年ニ候へば近在より百姓等相集り当処ニ而
馬乗御座候へ共、斯騒々敷場合ニ付馬乗も無御座候

四月八日
今日例年ノ通塩町ニ而馬乗御座候、安方町端レニ
も御座候

今回は、藩政時代から明治初年まで行われていた年中行事についてお話ししましょう。

毎年4月8日といえば、お釈迦様の誕生を祝う「^{かんぶつえ}灌仏会」という仏教行事があります。一般には「花祭り」という名前で知られているかと思いますが、この日、青森町では、安方町と塩町(青柳2丁目^{くらべうま}の一部)で「^{くらべうま}競馬(馬乗り)」が行われていました。ただ、「灌仏会」とはまったく関係はなさそうですが…。

この競馬はとても人気があり、青森町の近くの村々からも人が集まり、大変賑わっていたようです。とくに、遊郭がある花街の塩町^{おくにじゅんらんこっけい}での競馬は大変賑やかであったといえます(『御国^{うそつきげ}巡覧滑稽嘘盡戯』)。しかし、残念なことに、市中の往来を舞台にするこの競馬は、明治8年(1875)10月に禁止されてしまいます。

馬乗りの記録

〔「滝屋日記」明治2年4月8日条(左)、
明治3年4月8日条(右)〕

ところが、その翌年、明治天皇が東北・北海道を巡幸した際に青森町を訪れ、浜町で競馬を目にしているのです。おそらく、特別に催されたのでしょう。当時の記録によれば、馬に乗る人々の装束は、^{あかちりめん}緋縮緬の^{じゅばん}襦袢にたすき掛けの者や紋付の羽織姿の者、さらには洋服のようなものをまとう者…とさまざまで、彼らが乗る100頭ほどの馬が^{ぎよくざ}玉座の周りを思いおもいに駆け回り、とにかくオリジナリティーに溢れていたのです。天皇もずいぶんと楽しんだようです(『奥羽巡幸明細日誌』)。

現在は観ることができず、想いを馳せることしかできませんが、少々「^{かぶ}傾いた」感じの人たちによる馬乗りは面白そうです。何かの折に再現してもらいたいものですね。



塩町の遊郭



堤橋

(いずれも明治天皇巡幸の際、随行カメラマンが撮影したもの。『目で見える青森の歴史』より)